

LIBRARY

鳥取大学附属図書館報

141

Sep. / 2026

INDEX

- 01 巻頭言
大学図書館総会での邂逅 海藤 俊行
- 03 私の選んだこの一冊
『Uncaged : a thriller』 小幡 史子
『小説の経験』 岡村 知子
- 05 鳥取大学附属図書館 概要
沿革・組織・統計
コレクション
TOPICS: 最近の動向と主要な活動状況

巻頭言

大学図書館総会での 邂逅

副学長（附属図書館担当）
附属図書館長
医学図書館長（併任）

かいどう としゆき
海藤 俊行



鳥取大学附属図書館を日頃よりご利用いただき、誠にありがとうございます。2025年より附属図書館長を拝命しております、海藤俊行です。附属図書館（鳥取地区中央図書館、米子地区医学図書館）では、これまで教育・研究・学修支援のために、資料の収集、電子ジャーナル・文献データベースの整備、研究成果の発信支援、学修環境の充実、地域との連携などに取り組んでまいりました。お気づきの点や改善のご提案がございましたら、遠慮なくお寄せいただければ幸いです。

さて、国立大学の図書館は、より良い図書館サービスを提供するために、大学間で情報交換や連携を行っております。令和8年度は、4月に愛媛県松山市において愛媛大学図書館の主催で第53回国立大学図書館協会中国四国地区協会総会が開催され、6月には新潟県の新潟大学附属図書館の主催で第73回国立大学図書館協会総会が開催されました。松山市は私が若いころ10年ほど過ごした街であり、新潟県は祖父母の故郷ということもあって、偶然にも、どちらも私にとってゆかりのある開催地でした。

松山の中国四国地区総会では、活動報告や予算審議等に加えて館長会議や部課長会議がざくばらんな対話形式で企画され、各大学図書館の課題や取り組みを共有できたため有意義でした。愛媛大学図書館の見学では、本学図書館と同規模であることから、スペースを有効活用するような雑誌の配置に参考となる点がありました。また、図書館支援基金への「ご寄付のお願い」

が館内各所に掲示してあり、本学でもより積極的に取り組む必要があると感じました。

宿泊先のホテルから愛媛大学へは、ロープウェー街という愛称のなだらかな坂道の商店街を歩いて10分ほどでした。名前の由来は松山城に登るロープウェイの起点があるためですが、大学キャンパスと松山の繁華街をつないでいることから、幾度となく自転車で行った懐かしい道です。昔に比べると観光道路としての整備が進み見違えるほどの街並みに変わっていました。街路樹には純白の花が満開になっていました。見慣れない木だったので調べてみると「ヒトツバタゴ（別名なんじゃもんじゃの木）」であることが分かりました。ちなみに、鳥取県にも境港市に「なんじゃもんじゃ通り」がありますが、街路樹として植えられているわけではありません。

新潟の全国総会では、次期ビジョンの「国立大学図書館協会ビジョン2035」の策定が大きな協議事項になりました。近年、図書館を取り巻く環境が急速に変化しているため、具体性のある図書館事業の未来展望や将来構想が求められます。協議の結果、3つの重点領域「知の共有：蔵書を超えた〈知識や情報〉の共有」「知の交流：新たな知を紡ぐ〈場〉の提供」「知の架け橋：知の共有と交流を促す〈人的基盤〉の強化」を掲げ、それぞれにいくつかの具体的目標を定めて活動を行っていくことになりました。

新潟には総会の前日に上越新幹線で入りましたが、まずは駅近くの書店に立ち寄ることにしました。新潟出身の小説家「坂口安吾」の文庫本を手に入れるのが目的です。スーツケースを引きずりながらぐると店内を探してみましたが、文庫本コーナーには見当たりませんでした。あきらめかけていましたが、念のためにもう一度回ってみたところ、なんと特設コーナーで、表紙を前に向けて展示されていた「肝臓先生」を見つけました。手に取ろうとしたところ、さらに驚いたことに、右隣に並んで展示してあったもう一冊は、夏目漱石の「坊っちゃん」でした。驚いたのは、新潟ゆかりの坂口安吾と、松山を舞台とする夏目漱石「坊っちゃん」が、まるで私の訪問を待っていたかのように並んでいたことです。まさに「邂逅」と呼ぶべき出会いに驚きながら、ためらうことなく二冊とも購入することになりました。

短編「肝臓先生」の物語は、流行性肝炎を追い続ける医師の話です。戦後、ある医師の碑銘の執筆を依頼された語り手が、最初は気が進まなかったが、周囲の人から様々な逸話を聞いていく過程で医師としての信念や人間性を理解し、最終的に後世に伝えるべき人物だと考えて、碑銘を書く決意をすることになります。そこには、命を懸けて患者を第一に考える肝臓先生の姿がありました。当時まだ原因が明らかにならなかったウイルス性と思われる流行性肝炎を追い続ける肝臓先生の姿勢は、本学医学部が掲げる教育理念「豊かな人間性と高い倫理観を備え、社会に対する自身の役割を認識し、患者中心の立場に立った医療を実践すること」と一致していました。現在広く重視されている患者中心の医療は、どのような時代にも共通するものだと、改めて気付かされました。教室の職員が、この小説が30年ほど前に映画化されていることを教えてくれました。映画では今村昌平監督の演出により、肝臓先生を取り巻く人々の欲望や生命力を描いた群像劇がより強調されており、小説とは違った味わい深い魅力がありました。

一方、「坊っちゃん」は言わずと知れた漱石の代表作なので、若い頃に読んだことがあります。改めて読み返してみました。坊っちゃんの無鉄砲と正義感は並大抵でなく、明治の作品でありながら、私が若い頃に見た昭和の青春映画に好んで描かれることが多かった「不器用だが信念を曲げない若者」の原型のように感じました。令和の時代では、坊っちゃんは生きにくいかもしれませんが、これだけの一本気ですからもう少し忍耐力と柔軟性を身につければ、もしかすると研究者として成功できるかもしれないと想像してしまいました。また、「坊っちゃん」の中には、住田の温泉（道後温泉）、ターナー島（四十島）、野芹川（石手川）など、松山を思い起こさせる記載が数多くあります。現在はこういった場所を航空写真やストリートビューと重ね合わせることができるので、一層臨場感を感じながら楽しく読むことができました。

今年度の国立大学図書館協会の集会では、会議における学びに加えて、開催都市に関連した戦後文学や近代文学との思いがけない出会い（邂逅）がありました。ちなみに夏目漱石の「坊っちゃん」は中央図書館、坂口安吾の「肝臓先生」は鳥取市立図書館の蔵書にあるようです。皆様にも、それぞれの人生の中で、本との思いがけない邂逅があったのではないのでしょうか。これからもぜひ附属図書館をご利用いただき、新たな一冊との出会いを楽しんでいただければ幸いです。



肝臓先生

坂口安吾 著. 角川書店, 1997
ISBN: 9784041100189
所蔵準備中

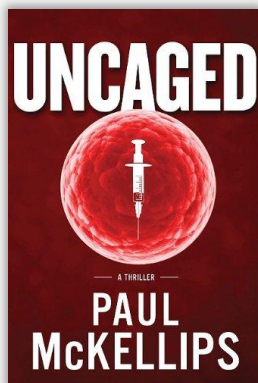
坊っちゃん

夏目漱石 著. 岩波書店, 1989
ISBN: 9784003101032
中央図書館 新書・文庫コーナー





私の選んだこの一冊



Uncaged

: a thriller

Paul McKellips. Vantage Point, 2011
ISBN: 9781936467068

所蔵準備中

今年4-5月に発生したクルーズ船「MVホンディウス号」でのハンタウイルス感染事件で3人が死亡したことは皆さんも記憶に新しいのではないのでしょうか。ハンタウイルスはネズミなどのげっ歯類から唾液、糞便、尿および空気中の微粒子を介してヒトに感染するもので、通常、人から人への感染はありません。ところが、今回のハンタウイルスはアンデスハンタウイルス(ANDV)という種類のウイルスで、人から人への感染もあるものだったために、クルーズ船という密閉された空間で短期間に大勢の感染が起きました。学術的には、アミノ酸の変異によって、ANDVの中でも人から人への感染を起こすウイルスが生まれると考えられています。また、先のコロナ禍では、ウイルスがアルファ型からベータ、ガンマ、デルタ、そしてオミクロン型へと次々に姿を変えていく様子を目の当たりにしました。このように、病原微生物における突然変異による改変は人にとって、今までに経験したことのない恐怖を与えるものであることは間違いありません。

では、もし、あるテロ組織が故意に、今まで人類が経験したことのない強力な病原微生物を作り出したと

したら？ またその時に、例えば動物愛護活動の高まりから、あらゆる動物実験が禁止されるような法律が制定され、新たな病原微生物に対抗する手段を研究する道が絶たれたとしたら？ 果たして世界は、そして人類の行方はどうなってしまうのか？ 今回ご紹介するPaul McKellipsによる『Uncaged : a thriller』は、もしかしたら起こりうるかもしれない、そして微生物研究者としては胃がキリキリしてくるようなストーリーを提供してくれます。男勝りな米軍獣医であるレズリー・レイنز中佐と、元米海軍特殊部隊員で現海軍医であるシーバリー・キャンベル指揮官。2人は、テロ組織・アルカイダによってバイオテロの拠点と化したアルジェリアやモロッコ、イエメンへ赴きます。そして、ペスト菌とエボラウイルスのハイブリッドである、新種の病原微生物にまつわる謎に挑みます。一方、米国では、動物愛護活動家たちによる国内テロが進められていきます。果たしてレイنزとキャンベルは、ハイブリッド病原体の特効薬を作り出し、バイオテロから世界を救うことができるのでしょうか？ 英語の本ですが、物語がテンポ良く進んでいき、読みやすい構成になって

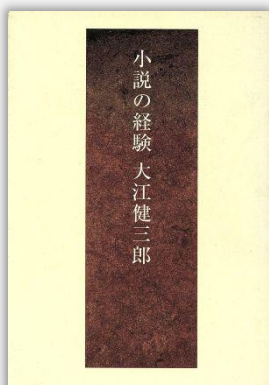
いて、まるでハリウッド映画を見ているような作品です。

本書に登場する様々な事象は、実際に起こった数々の社会的な問題を反映していて、健全な科学の社会への寄与を守るための、私たち各人の役割をも考えさせられる内容となっています。



小幡 史子
(おばた ふみこ)

医学部 准教授



小説の経験

大江健三郎 著. 朝日新聞社, 1994
ISBN: 4022568178

所蔵準備中

大江健三郎(1935-2023)という小説家について、みなさんはどのような印象をお持ちでしょうか。1994年にノーベル文学賞を受賞したことや、息子である作曲家・大江光氏の存在など、マスメディアを通じて得る情報が断片的なものでしかないのは当然としても、彼が書き残した文章の一つ一つが、読者の心に安定した筆者像を結ばせない力をもって働き合っているように思われます。例えば、『万延元年のフットボール』(1967年)の登場人物たちの、性的・暴力的なふるまいと、『「自分の木」の下で』(2001年)に描かれる、樹木を愛し、言葉の響きに立ち止まる少年の佇まいとはどのような関係にあるのか——。本書もまた、そのような問いを追いかける旅を導いてくれる一書です。

本書は、温かみのある敬体で書かれた「Ⅰ 文学再入門」と、やや硬質な常体で著された「Ⅱ 文芸時評」から成り、両者の読後感には隔たりがあります。テレビの連続講座を原稿化したものである第Ⅰ部は、文学についての確かな教養を蓄えながら、外交官としての仕事を果し亡くなった友人に捧げられたもので、かつて読んだドストエフスキー『罪と罰』や、志賀直哉『暗夜行路』などの名作を、読書がままならなかった時期の経験をふまえて読み直す作業を支えてくれます。

その中で、私が著者の語りを通じて出会わせてもらえたことを特にあ

りがたく感じたのは、佐多稲子の「水」という短編小説(1962年)でした。少し足の不自由な、二十歳前の女性である「幾代」は、上京し旅館の中居として働いていましたが、母危篤の報せを受けても帰省することを許されず、母が亡くなった後に、故郷に向かう汽車を待っています。頬に涙を伝わせた「幾代」は、駅員が水を汲むための水道の前を通り過ぎる時、出しっ放しにされた水道の栓を無意識に止め、またしゃがんで泣き続けます。大江はこの場面に、ロシア・フォルマリズムの理論家・シクロフスキーが「異化」と名付けた表現技法(見慣れたもの〈ここでは蛇口〉を見慣れぬものに変換し再認識させる)を見て、次のように述べています。

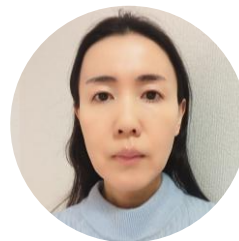
「そしてどんなに悲しんでいる時でも水が無益に流れているのを見れば栓をしめずにはいられない、そのようなつましさが生活習慣となったこの娘の人柄そのものが、やはり私たちに明視されるのです。」

私には、水道の蛇口を無意識に止めた「幾代」の姿が、豊かさとはかけ離れた生活の中で、極度の節約家となった私の母と重なり、最愛の母を失い泣いている同じ人の表情が、未来の私自身のものとしか見えなくなりました。私は現在、母と二人で暮らしており、母と私はどこまで行っても他者同士であることを痛切に感じています。そうした私たちの関係性の悲しさが、「幾代」とい

うかけがえのない一個人の実在感において言語化されていることに、そこはかとない救いを感じています。

「Ⅱ 文芸時評」のほうは、1992年から94年にかけて著された文学作品を、大江が同時代作家の一人として鋭く論評したのですが、必ずしも今日において読み継がれていない作品がいくつもあることを認識するとともに、メディアにおける「言葉狩り」は、「偏見を持っているが差別をしない人」を量産するが、この構造からは「偏見を持ち差別をする人」が容易に再現するにちがいないという、現代社会に通じる警句をも与えられます。

大学で日本近代文学の授業や研究を行っていても、文学に入門できたという自信はなく、世界文学となればなおさらです。生きている間に、文学に再入門することを目標に、その入り口に向かって一日一日を過ごしていけたらと願っています。



岡村 知子
(おかむら ともこ)

地域学部 准教授

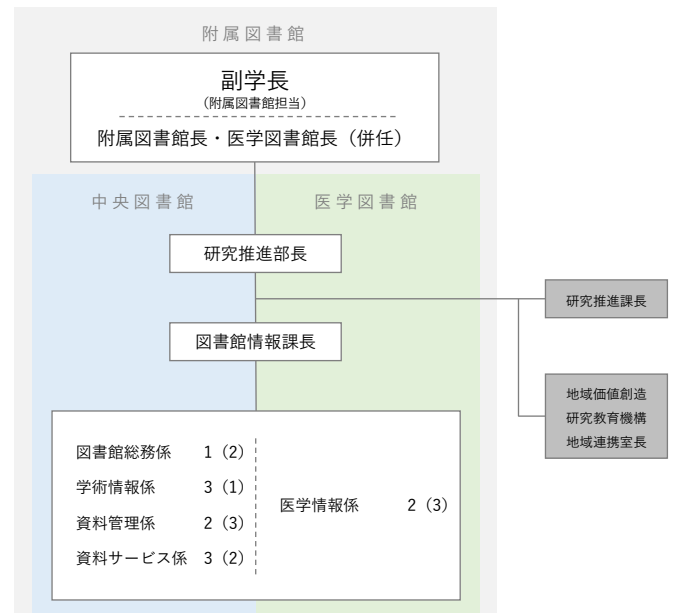
鳥取大学附属

沿革

1949年	鳥取大学設置と同時に、その母体となった鳥取師範学校・鳥取青年師範学校・米子医学専門学校・米子医科大学・鳥取農林専門学校の各図書館・図書室を包括して附属図書館が発足
1966年	施設整備費（統合移転）により、現在地に中央図書館（鉄筋2階書庫4層建）を新築
1971年	医学部分館（鉄筋2階書庫4層建）を新築
1989年	図書館業務電算化。OPACを導入
1996年	地域住民への貸出サービス開始
2004年	従来の附属図書館業務に総合メディア基盤センター事務、事務情報基盤等を加えた学術情報部を創設
2009年	鳥取大学研究成果リポジトリの運用開始
2010年	中央図書館リニューアルオープン
2013年	医学部分館リニューアルオープン
2015年	医学部分館を「医学図書館」へ名称変更
2018年	事務組織改編により学術情報部を解体、附属図書館業務を所掌する図書館情報課は研究推進部へ編入 入退館システムを導入

組織

（2026年4月27日時点）



※数字は職員数（括弧内は非常勤職員数（外数））

統計

（2026年4月1日時点）

区分	所蔵図書（冊数）			所蔵雑誌（タイトル数）				利用状況			
	和漢書	洋書	合計	和雑誌	洋雑誌	電子ジャーナル (契約タイトル数)	合計	開館日数	入館者数	館外貸出（図書）	
										点数	人数
中央図書館	423,251	100,214	523,465	7,491	2,228	6,599*	16,318	298	227,202	39,583	21,536
令和8年度 医学図書館	78,293	78,680	156,973	1,349	1,162	426	2,937	294	56,589	8,186	4,768
計	501,544	178,894	680,438	8,840	3,390	7,025	19,255	-	283,791	47,769	26,304

※電子ジャーナル(中央図書館)は一部を除き全学で利用可。

コレクション

郷土資料・貴重資料

本学の前身である旧鳥取県師範学校や旧高等農業学校時代から受け継がれてきたもののほか、卒業生・関係機関・地域の方々から寄贈された、本県・本学の歴史を語る数々の郷土資料、価値のある刊本・写本等の貴重資料を多数所蔵しています。



第10代鳥取藩主池田慶行公
直筆絵画

大型コレクション

- ◆ 百部叢書集成
- ◆ コロンビア大学教育学叢書
- ◆ Gazette des Beaux-Arts. Series 1-6
- ◆ 世界センサス集成（アジア）
- ◆ ランドルトーベルンシュタイン
科学・技術数値データ集 新版 第3集
- ◆ エンブレム（寓意図像集）関係コレクション

図書館 概要



TOPICS

最近の動向と主要な活動状況

○ 公費による文献複写無償化サービスを開始

本学教職員を対象に、2026年1月から「公費による文献複写無償化サービス」を開始いたしました。本サービスにより手続きの簡素化と研究環境の向上を図っております。令和8年度以降も引き続き実施しておりますので、研究活動にぜひご活用ください。



附属図書館Webサイト
サービスお知らせページ

- 対象者：本学教職員
- 対象：
他大学・他キャンパスからの文献複写取り寄せ
(複写料・送料が無料)
- 年度あたりの申込上限：原則1人5件まで



2025年 4月	医学図書館夜間開館を業務委託運用開始（1日） 視覚障害者等用データ送信サービス、学術文献録音図書の貸出サービスの提供開始（いずれも国立国会図書館提供）（1日） 図書館資料PDF送信サービス（図書館等公衆送信サービス）試行開始（1日） 学生図書館WGによる新入生歓迎ツアー＆茶話会（18日） 国立大学図書館協会中国四国地区協会総会（25日 岡山大学）	10月	第2回中央図書館蔵書計画専門委員会（2-20日 メール審議） 学生図書館WGによるGiving Campaign2025（10-19日） 学生図書館WGによるクイズラリー@風紋祭（11-13日） 中国四国地区大学図書館研究集会（17日 オンライン） 全国大学ビブリオバトル2025地区予選（22日） 国際オープンアクセスウィーク（20-26日） 鳥取県立図書館主催「図書館へ行く！キャンペーン」参加（24日-12月24日） 鳥取地区図書館実務者連絡会議（29日 鳥取環境大学） 第2回附属図書館委員会（30日 オンライン） 第3回医学図書館運営委員会（31日-11月14日 メール審議）
5月	大学入門ゼミ、情報リテラシーなどの授業で、図書館職員による図書館利用法などの説明を実施（主に4-6月） 学生図書館WGによる新入生歓迎ツアー＆茶話会（13日） 中国四国地区大学図書館協議会総会（16-30日 書面審議） 第1回附属図書館委員会（29日 オンライン）	11月	全国大学ビブリオバトル2025中国Bブロック決戦@鳥取大学（3日） 学生図書館WGによるG-frenz留学生ツアー（19日） 日本医学図書館協会中国・四国地区会総会（21日 オンライン） 全国大学ビブリオバトル2025本戦inながさきピース文化祭（23日 アルカスSASEBO）・地域学部1年生出場 国立大学図書館協会中国四国地区協会実務者会議（28日 島根大学）
6月	第1回医学図書館運営委員会（10日 オンライン） 医学図書館ブックハンティング（18日 本の学校今井ブックセンター） 国立大学図書館協会総会（19-20日 東北大学百周年記念会館） ・学生協働の取り組みについてポスター発表 湖東中学校職場体験学習受入（24-26日） 鳥取県図書館協会定期総会（25日 鳥取県立図書館） 第1回中央図書館蔵書計画専門委員会（27日 オンライン）	12月	米子市立図書館鳥取大学附属図書館医学図書館共催講演会（6日） 中国四国地区国立大学図書館所管部課長会議（12日 島根大学） 国立大学図書館協会中国四国地区協会事業委員会（15日 岡山大学） 学生図書館WGによる本の福袋の貸出（17-25日） 第3回附属図書館委員会（臨時）（22日 オンライン）
7月	学生図書館WGによるG-frenz留学生ツアー（2日） 第2回医学図書館運営委員会（10-28日 メール審議） 中央図書館外壁改修工事（18日-12月29日） 学生図書館WGによるクイズラリー@オープンキャンパス（19-20日）	2026年 1月	公費によるILL文献複写無償化サービス開始（1日）
8月	学内ワークスタディ学生受入（8月-2026年2月） 医学図書館照明のLED化（8-22日） 鳥取県図書館大会（18日 米子コンベンションセンター）	2月	中央図書館ブックハンティング（5日 今井書店吉成店） 学長裁量経費により中央図書館閲覧室コンセント増設（9-24日） 第4回医学図書館運営委員会（10日 メール審議）
9月	第1回資料選定専門委員会（1日 オンライン） 図書館システム更新（9日）	3月	第4回附属図書館委員会（3日 オンライン） 中央図書館照明のLED化（3-27日） 第5回医学図書館運営委員会（11日 オンライン） 第3回中央図書館蔵書計画専門委員会（19-24日 メール審議） 文献情報データベース「J-DreamIII」契約終了（31日）



編集・発行

鳥取大学附属図書館

〒680-8554

鳥取市湖山町南4丁目101番地



<https://www.lib.tottori-u.ac.jp>



https://x.com/TottoriU_Lib